

山口県生協連 ニュース vol.229

発行：山口県生活協同組合連合会
〒753-0083 山口市中後河原 210
TEL: 083-923-5614 FAX: 083-928-5416
E-mail: yken.ccu@smile.ocn.ne.jp
<http://yamaguchi-kenren-coop.jp/>



2019年3月10日発行

第2回山口県生協連役職員研修会を開催しました

2019年1月17日、山口県労働者福祉会館にて2018年度第2回役職員研修会を開催しました。参加人数74名、開催時間は13:00~14:30

今回は講師に山口県立大学看護栄養学部准教授 今村主税氏をお招きし、「SDGsとは? なぜ目標設定がされたのか?」という題で講演していただきました。

県生協連の荒瀬専務理事は、「日本生協連は昨年 SDGs 行動宣言を採択しました。SDGs という言葉は聞いて知っていると思いますが、詳しいことを理解できていないところもありますので、今回研修会を開催することにしました」と述べました。

生協連の有吉会長は、「今回の研修会で SDGs をしっかりと学んで生協が社会の中で何ができ、どう取り組み、持続させていくのか考えていただきたい」とあいさつをしました。

今村氏は、まず研修会の目標を①持続可能な開発目標（SDGs）の思想を理解する。②SDGs を「他人事」ではなく「自分事」として捉えることができるようになること、と言われました。

講演では、SDGs が設定されるまでの歴史と17の開発目標を1つずつ説明されました。

17の目標は単独ではなく複数の目標が密接に関わっていること、1つだけを取りだして解決することはできない。また、誰かがやるのではなく今こそ誰もが行動をおこす時と述べられました。



講演の後、ワークシートを使った作業を行いました。何個かの問題に対し17の目標に関連するものを選ぶという作業でしたが、関連するものは1つとは限らず、捉え方やどのように関連付けして問題を解決していくのかを考え、他の人と話し合いました。



今村主税氏



有吉会長

先生が理事長をされているフードバンク山口についても紹介していただきました。食べないで廃棄される食品が多いこと、相対的貧困者が多いことから、家庭・企業などで眠っている食品や廃棄される食品等を引き受けて、経済的に苦しい生活を強いられている生活困窮世帯や児童福祉施設などへ食料の支援をする活動をされています。



最後に、消費者が物を買って消費をすることは企業に1票を投じることであり、皆がエシカル消費をすることで未来も変わるのでは、生協も購入してもらう立場として考えて欲しいと述べられました。

<参加者の感想>

- 「持続可能な開発目標は多岐にわたりそれぞれが関連している。色々な考え方があり他の方の考えも聞くことにより参考になった。日常生活の中で自分のこととして考え行動していきたい。」
- 「ワークシートをすることで、17の目標全てが関連していることに気づきました。又、自分のこととして考えられ、即行動へ移すべきだと痛感しました。」

消費者団体と県行政との意見交換会へ参加しました

「県行政と消費者団体の意見交換会」は今年で4年目、今回で8回実施。消費者行政の充実のために積極的な意見交換の場となりました。

(日時) 2018年11月14日(水) 13:30~15:00

(会場) 山口県消費生活センター学習室「まなべる」(県庁内厚生棟 2F)

(出席者) 県行政より7名 消費者団体より8名

(内容)

初めに、消費者団体から、市町との意見交換会の報告と各団体の活動報告をおこないました。次に、県行政からの情報提供として

- ①山口県消費者基本計画の改定について
- ②国の動向
 - ・「地方消費者行政強化作戦」の進捗状況
 - ・消費者教育の推進について
- ③平成30年度県事業の実施状況
 - ・高齢消費者被害防止対策強化事業について
 - ・学生消費者リーダー育成事業について
 - ・「エシカル・ラボ in 山口」の開催について

報告がありました。



最後に意見交換をおこないました。

- ①市町における消費者安全確保地域協議会の設置促進について
 - ・目的の共有と協議会設置のための行政内での部署連携、運用と成果についての情報提供などの強化などについての意見が出されました。
- ②成年年齢引き下げを見据えた若年者への消費者教育の推進について
 - ・中高生への教育について県としての推進策づくりなどの意見が出されました。
- ③「エシカル消費」の普及啓発について
 - ・普及啓発のための組み立てや県としての目標づくりなどの意見が出されました。
- ④その他
 - ・県消費者基本計画の実施における協力・連携の意見がだされました。



第 40 回 福祉メーデー山口県集会へ参加しました

11月7日（水）、山口県労働者福祉協議会は労働者福祉強化月間の主要行事として第40回福祉メーデー山口県集会を開催しました。

メインスローガンは「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう！」。県生協連からの基調報告は、関連団体のNPO法人消費者ネットやまぐちが実施している「夜間無料法律相談会」について報告しました。相談会の活動紹介と併せて、地域でのネットワークづくり、適格消費者団体への移行を目標にしていることなどにふれ、賛助会員への呼びかけも行いました。



第 44 回山口県消費者大会が開催されました

12月3日（月）10：00～14：00 山口県総合保健会館にて、第44回山口県消費者大会が開催されました。山口県消費者団体連絡協議会主催。山口県生活協同組合連合会は後援をしています。

大会テーマは『みんなで守ろう！消費者の食とくらし』
記念講演、基調報告<山口県自治体消費者行政調査活動のまとめ>、各団体の活動報告などがありました。

生協連の有吉会長は、県民お互いが助け合って共存する社会、より良い社会を目指して活動していきたいと挨拶しました。

記念講演は、すろーふーどらいふ和（のどか）代表の白木美和氏が、

「**気働きで 笑顔つながる食とくらし**」という演題でお話しをされました。



白木氏は古民家で自然に寄り添った生活を実践されていて、自然素材を使った季節の保存加工食、エコライフな手作り品、野草薬草や麹菌による自然の力の実感、竹和紙づくり、季節とともにある暮らしなどを紹介されました。さらに学校教育での自然食体験、地産地消活動なども紹介されました。こうしたちょっと手をかける気働きをすることで、スローフード人生を長く続けることができ、自然に寄り添った体験が人生において様々な場面で発揮され、人間関係も良好になり、災害時も役立つそうです。不便さの中にも豊かな生活があるのでは、と述べられました。

会場外ではフードドライブ（家庭で使わない食品を持参すること）が行われました。



白木美和氏



山口県生協連主催

「第8回監事・監事スタッフ研修会」を開催しました

この研修会は今年度で8回目となります。この間の研修では監事の役割や監査内容や具体的な監査の仕方について実施してきました。

今年度は、この研修を年に1回しか開催していないことから、あらためて監事監査の基本的な事項について、また併せて、年度末も近いことから会計監査・期末監査のポイント等について学ぶことにしました。

日 時 2019年2月22日 13時30分～16時

会 場 コミュニティーセンター「はあもにい～♪」

テーマ 「監事監査支援ツール紹介と期末監査チェックリストの解説」

講 師 日本生協連 総合マネジメント本部 法務部

監事監査支援担当 岡坂 充容 氏

参加人数 会員生協4生協6名



◆山口県ユニセフ協会の活動紹介◆◆

山口県ユニセフ協会は山口県生協連が呼びかけ団体として関わり、2017年10月に設立されました。昨年〈2018年〉は初めて通年での活動をおこないました。

県内各地域での学習会、山口県で開催された中体連全国大会会場での出展、やまぐちゆめ花博での出展（1週間）、年末のハンド・イン・ハンド募金をはじめ、地域のお祭りや図書館、郵便局でのパネル展示をおこないました。2019年1月末現在で山口県内の賛助会員数は17団体・個人122名の合計141件と、たくさんのご協力をいただいています。山口県ユニセフ協会の活動と世界の子どもたちの支援のために賛助会員を募集中です。お問い合わせは山口県ユニセフ協会、または、山口県生協連まで連絡をお願いします。

